

令和8年 2月 25日

日本衛生学会理事長選挙立候補にあたっての所信表明

近畿大学医学部  
予防医学・行動科学教室  
東 賢一

私こと東賢一は、このたび、一般財団法人日本衛生学会の理事長選挙に立候補いたします。立候補にあたりまして、ここに所信表明をいたします。

これまで私は、2020年以降、理事を3期務めてまいりました。3期目では副理事長を拝命し、亀井美登里理事長を補佐する役目を務めてまいりました。

2020年以降、日本衛生学会では、いくつかの改革と新規事業の推進がございました。私は理事として、衛生学エキスパート制度の創設と推進、選挙制度の改革、学会誌EHPMのオープンアクセス化後の国際的知名度の向上、100周年事業の推進などの議論にも関わり、これらの改革と推進をみてまいりました。また、対外的には、日本医学会連合の新型コロナウイルス感染症の情報発信ワーキンググループや健康危機管理対応人材育成に関する合同検討委員会、環境省の化学物質・廃棄物・汚染に関する科学政策パネルの国内推進に関する委員会などに本学会を代表する委員として参画してまいりました。また、第97回日本衛生学会学術総会の学術総会長を仰せつかり、現在、その準備を鋭意進めているところでございます。

衛生学は、19世紀の欧州で、産業革命後の都市化による住環境の悪化等による伝染病の蔓延などに対応するなかで生まれた概念であり、日本では明治の前半に衛生学の概念が導入されました。衛生学者が全国規模の学会を開催したのは、1902(明治35)年4月の日本聯合医学会第1回学会第14分科会であり、そこから120年を超える歴史がございました。1929(昭和4)年には「日本聯合衛生学会」が発足し、1949(昭和24)年に現在の「日本衛生学会」と改名され、今日に至っています。日本聯合衛生学会の発足から間もなく100年を迎えることとなります。

衛生学は、人の生を衛(まも)るために、人に内在する要因や人を取り巻く外的要因と疾病や健康障害との関係を科学的に解明するとともに、疾病予防や健康増進に資する社会的な取り組みにつなげていく学問です。衛生学は、先達の先生方や会員の皆さまによって、これまで多くの分野に関する研究が進められ、学術的な成果の創出とともに、社会にも大きく貢献してまいりました。私たちは、この伝統ある衛生学を継承し、さらに発展させていかねばなりません。それにあたり、日本衛生学会が有する使命と果たすべき役割は、きわめて重要でございます。衛生学に関わる社会における課題は現在も多数存在し、産業や社会の発展に伴い、今後も新たな課題が出現するでしょう。

私はこれまで日本衛生学会の改革や発展に関与し、私自身も衛生学に関する研究に邁進してまいりました。私はこれまで得た知識や経験を活かし、歴代の理事長や理事が築き上げてこられた日本衛生学会の礎をさらに発展させ、社会に貢献していきたいと思っております。私は他の学会で

はございますが、学会運営としては、一般社団法人室内環境学会の理事長を2期務めており、組織改革、財務基盤の改善、事業の見直しや拡充、国際連携の強化などを行った経験がございます。

日本衛生学会におきましても、持続性かつ発展性のある学会運営を進めてまいります。特に日本衛生学会の財務基盤は安定化し、良好な状態に推移してまいりました。今後はその状態を活かし、若手研究者の活性化や研究助成制度の創設など、会員サービスの拡充を行っていきたいと考えております。また、情報発信の強化、関連学会等との連携や協働の強化、政策や社会への提言の促進などを積極的に進めて参りたいと思っております。衛生学エキスパート制度におきましては、その認知度向上と社会貢献の方策などを検討して参りたいと思っております。学会の発展に大きく貢献してきた学会誌 EHPM に関しましては、編集委員長とともに、より一層国際的な認知度を向上させて発展させていきたいと考えております。

日本衛生学会は、間もなく創設 100 周年を迎えます。この大きな節目にあたり準備を進めている 100 周年記念事業についても、新理事の先生方とともに、大きな成功を収めるよう準備を進めてまいります。

学会の運営や今後の発展に際しては、理事、監事、代議員、会員など、日本衛生学会に所属する全ての皆さまのご支援とご協力が欠かせません。皆さまお一人お一人のお声を真摯に受け止め、学会運営と学会のさらなる発展に尽力してまいりたいと思っております。

何卒よろしくお願い申し上げます。